

平成 24 年 6 月 16 日

平成 24 年度帰国教員報告会資料

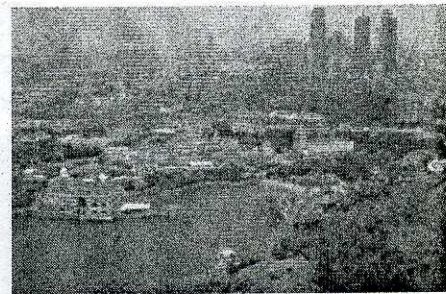
中国蘇州日本人学校での教育実践

前蘇州日本人学校

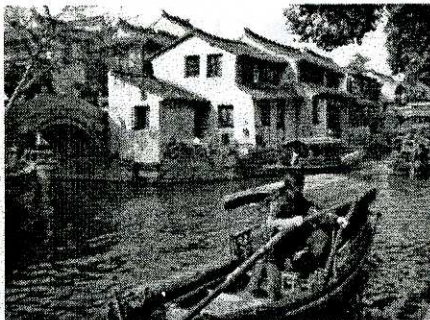
所沢市立南小学校 教諭 麻生 美紀

1. はじめに

蘇州には縁があり、大学1年生の秋、初めての海外旅行が中国上海・南京・蘇州だった。日本から船で上海の港に着き、そこからは汽車に乗って蘇州へと向かった。蘇州の街を南京大学の学生とグループになって散策した際、緑色の郵便ポストや、その当時、日本円で7円（現在は13円）の美味しい肉まんに驚いたことを懐かしく思い出す。その頃と今とでは、市内中心部は大きく様変わりし、中国の経済発展は、まさに飛ぶ鳥を落とす勢いである。



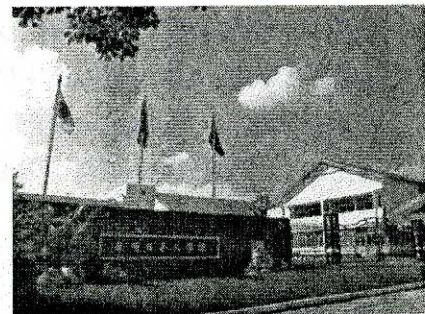
蘇州は、江蘇省東南部の長江デルタ地帯に位置し、上海までは、車で約1時間半、80キロの距離にある。現在では、全市人口約六百万人、



外資企業関連の会社が多く、日系企業もたくさん進出している。駐在する日本人も年々増え続けており、治安もよく、住みやすいところである。蘇州の歴史は古く、今から二千五百年前の春秋時代には呉の国の都だった。市内に残る元・明・清時代の古典園林は、世界遺産にも指定されている。また、東洋のベニスと称される蘇州には、たくさんの水路があり、

旧市街を散歩すると、今でも、昔ながらの水を利用した生活様式を見ることができる。

現在、世界各地にある日本人学校のうちの13校が中国にある。蘇州日本人学校は、小・中学部を併設した中規模校で、7年前の開校時には、児童生徒数60名だったが、今では380名にまで増加している。今年開校7年目の新しい学校だが、蘇州にも地下鉄が通ることになり、立ち退きが決まった。今は、9月の移転に向けて新校舎の工事が着々と進んでいる。

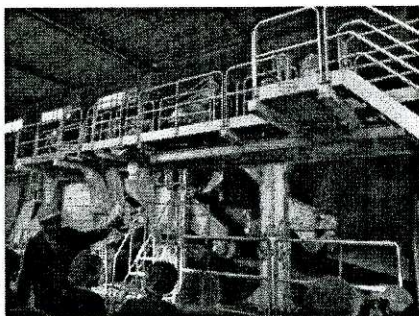


2. 現地企業との交流を通して

21年度には、現地日系企業「久保田農業機械蘇州有限公司」の調査見学を行った。工場は、会社の理念を具現化した場所であること、人材育成、信賞必罰、ルールや規律の徹底を常に心がけているという言葉が印象的だった。中国の総人口の80%が農業を営んでいるが、働き盛りの年齢層が都心部に出稼ぎに行き、機械化や、刈り取りを仕事

にした業者が久保田のコンバインを使用し、中国国内を移動して利益を得ていること、その際のメンテナンスサービスまで新規購入の際料金に含んでいることなど、きめ細かいサービスを売りにしているところが印象的だった。5年生の社会米作りの単元の後、社会見学をさせていただいた。

23年度は、小学部3年生の社会科を担当し、1学期の町探検では、シャングリラホテルの協力を得て、48階から自分たちの住む蘇州の街を見る活動を行った。シャングリラホテルは、蘇州新区の中で最も高さが高い建物である。事前の打ち合わせの際、比較的宿泊客の少ない日を見学日に設定しておいたのだが、直前に大きな会が入り、当日は稼働率100%だったらしい。しかし、快く受け入れて下さり、児童は48階から8方位や日本人学校の



位置を自分の目で確認し、大変有意義な時間を過ごすことができた。2学期には、現地日系企業「王子制紙妮飄有限公司（ネピア）」の調査見学を行った。ネピアには、毎年小学部3年生の工場見学と中学部2年生の職業体験でお世話になっている。蘇州新区のネピア工場には、約330人のスタッフが働いている。この工場では1日に22万箱のティッシュペーパーが生産されることや、日本の

ポケットティッシュの形が珍しく、中国で流通している形が世界的に主流であることなど聞いて、児童はその後の新聞作りで記事にしていた。「地域で働く人々」では、スーパーマーケットの仕事を日系スーパーマーケット「しんせん館」の総経理にゲストティーチャーに来ていただいた。店内の工夫や中国での苦勞、流通の仕組みや仕事の喜びなど、中国で働く方の生の声を聞くことができた。

また、23年度から校内研究で現地企業とのコラボレーション授業の取り組みを始めた。校内を4つのブロックに分けて、各企業と授業を作り上げる。

中学年ブロックでは、現地日系企業三洋電機との授業を行うため、夏季休業中に企業見学をさせていただき、打ち合わせを重ね、環境教育の授業を行った。エネループという約1500回繰り返し使える充電電池を主に生産する蘇州三洋電機は、生産過程で使用した汚水を浄化し、1滴たりとも工場外に排出しない。この技術や環境への配慮をコラボレーション授業の柱として授業を展開した。



3. 中国文化 ～篆刻～

22年度から中学部の美術も担当することになり、中学部3年生の美術の授業で篆刻に取り組んだ。篆刻の歴史は古く、中国では紀元前700年前にまでさかのぼる。蘇州博物館には、元の時代の印鑑がある。上海博物館には、中国歴史意印章館があり、約500点もの作品が展示されていた。篆刻には印字部分を彫って文字が白抜きになる陰

